MEIRIN NEWS PAPER　2021年（令和三年）7月16日（金曜日）　～323号～

明倫新聞

発行：「学校を元気に!」の新聞部
石川県立野々市明倫高等学校
野々市市下林3－309

Nobody who ever gave his best regretted it .
「全力を尽くした者は決して後悔しない」
ジョージ・ハラス
（アメリカンフットボール元コーチ）

壮行式 決意を表明
コロナ禍の大会開催

7月2日、野々市明倫高校の第一体育館にて、野球部や吹奏楽部などの大会に向けての壮行式が行われた。一年生は壮行式の様子を放送で聞き、二、三年生は体育館で選手達を応援した。サッカー部が応援団として鼓舞し、各部から大会に向けての目標や想いが語られた。

式では、野球、吹奏楽、水泳、ボウリングの選手が登壇した。7月10日に行われる全国高等学校野球選手権石川大会出場を控えた野球部の代表が、今年は大会が実施されることに喜びを表し、「周りで支えてくれた全ての方に感謝し、自分たちの野球をしてきます。精一杯頑張ってくるので応援よろしくお願いします」と意気込みを語った。石川県吹奏楽コンクールに出場する吹奏楽部は「三年生にとっては、最後の大会となるので悔いのないよう部員一同頑張ります」と抱負を述べた。

石倉喜八朗校長はコロナ禍で出場出来ない学校があることに言及しつつ、「それぞれの先輩たちの想いを含めて、日ごろの練習の成果を存分に発揮して欲しい。期間と場所は違いますが、運動、文化部両方とも非常にバランスの取れた形で皆頑張っています。誇りを持って、頑張ってきて欲しい」と激励した。

生徒会長の水上悠君は「厳しい練習を通して培ってきた仲間との絆を活かして、本番も全力を尽くし、悔いの残らないよう最高のプレーをしてきて欲しいと思います」と選手達にエールを贈った。

ステージで整列する選手＝第一体育館

野球部	7月10日	金沢市民野球場 対 金沢西高校
吹奏楽部	7月25日	金沢歌劇座
演劇部	8月5日	野々市フォルテ
水泳	7月24日	長野運動公園総合運動場
ボウリング	7月29, 30/8月16, 17, 18	富山県, 神奈川県

別れを超えて

皆さんにとって、別れというのはどのようなものだろうか。悲しいもの、突然やってくるもの―。人によって別れに対する捉え方は異なるが、多くの人が後ろ向きなものとして捉えているのではないだろうか▼虹という合唱曲の歌詞には、「僕らの出会いを誰かが別れと呼んだ」と、「僕らの別れを誰かが出会いと呼んだ」というフレーズがある。このフレーズからは、出会いと別れというのは紙一重であり、常に表裏一体の存在として成り立っていることが分かる。別れというのは、決して悲しみや虚しさを生むだけのものではないのだ。その先には、新しい出会いや希望、誰も予想することの出来ない未来が待っている▼今後の人生を左右するかもしれない数々の別れは、我々の気持ちに関係なく必ずやってくる。そこで少し、別れというものを前向きに考えてみよう。（時）

ティファニー先生離任
「明倫での日々忘れない」

7月2日壮行式の後、本校のＡＬＴであるティファニー先生の離任式がおこなわれた。

ティファニー先生は就任してから今年で二年目。先生は日本文化やキャラクターに興味があり、様々な文化の紹介や、音楽や映画を使った楽しい授業作りを行っていた。生徒とは授業以外でも部活動や学校行事で親睦を深めた。

ティファニー先生は明倫高校での生活や生徒との思い出について、英語と日本語を交えながらスピーチを行った。

「皆さんが将来の夢を叶えてくれることを期待しています」と生徒を激励し、「私はここで過ごした日々を忘れることはないでしょう。新しい場所に皆さんがいなくて寂しいです。皆さんお元気で」と別れを惜しむように語った。

ティファニー先生は今月16日に母国であるアメリカに帰国する。

←感謝を込めた花束を渡す生徒会

←明倫高校への熱い想いを語るティファニー先生